

令和5年JGAP畜産認証取得経営体へのアンケート調査

目次

1 調査概要	1
2 令和5年JGAP畜産認証取得経営体へのアンケート調査結果	
(1)回答のあった経営体の概要	2
(2)取り組んだきっかけと実際の効果	3
(3)取り組んだきっかけ(R元年～R5年調査)	4
(4)取り組んだ効果(R元年～R5年調査)	5
(5)GAP導入による変化(経営改善効果)(R元年～R5年調査)	6
・販売面の改善	
・生産量・品質面の改善	
・コスト面の改善	
・作業・生産管理の改善	
・従業員管理の改善	
(6)今後のGAPの取得方針、GAP認証の表示について	11
(7)生産者等の声	12

1 調査概要

① 調査内容

GAP認証を取得するきっかけや、取得した場合に具体的にどのような効果があったかについて実態把握を行った。

② 調査方法

調査対象：令和5年度にJGAP畜産認証を取得していた経営体
(217経営体)

調査時期：令和6年2月～3月

調査方法：農林水産省が(一財)日本GAP協会を通じて、googleフ
ォームにより調査

回答数：59農場(71経営体)(回答率33%)

③ 調査項目

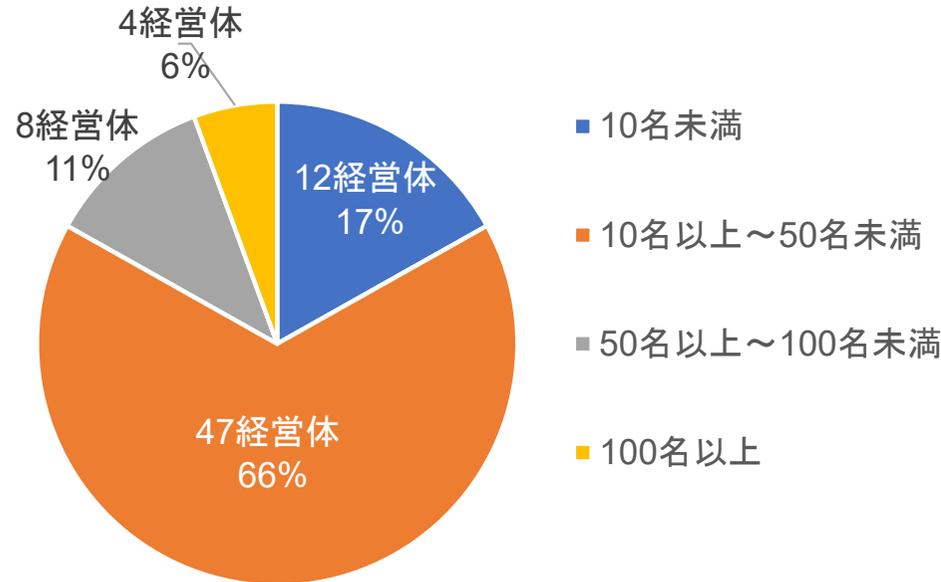
- ✓ GAPに取り組んだきっかけ(理由)とその効果
- ✓ GAP導入による変化(経営改善効果)
- ✓ 今後のGAP取組方針について(認証取得、認証表示) 等

2 令和5年JGAP認証取得経営体へのアンケート調査結果 (1) 回答のあった経営体の概要

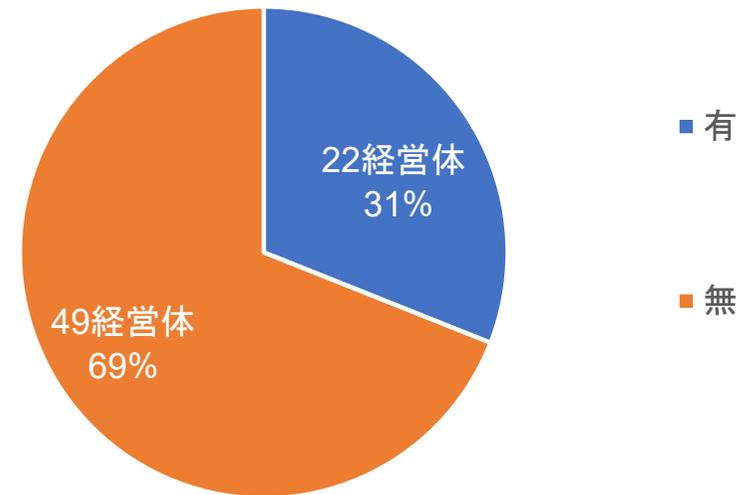
【回答のあった71経営体の飼養畜種の内訳】



【従業員数】



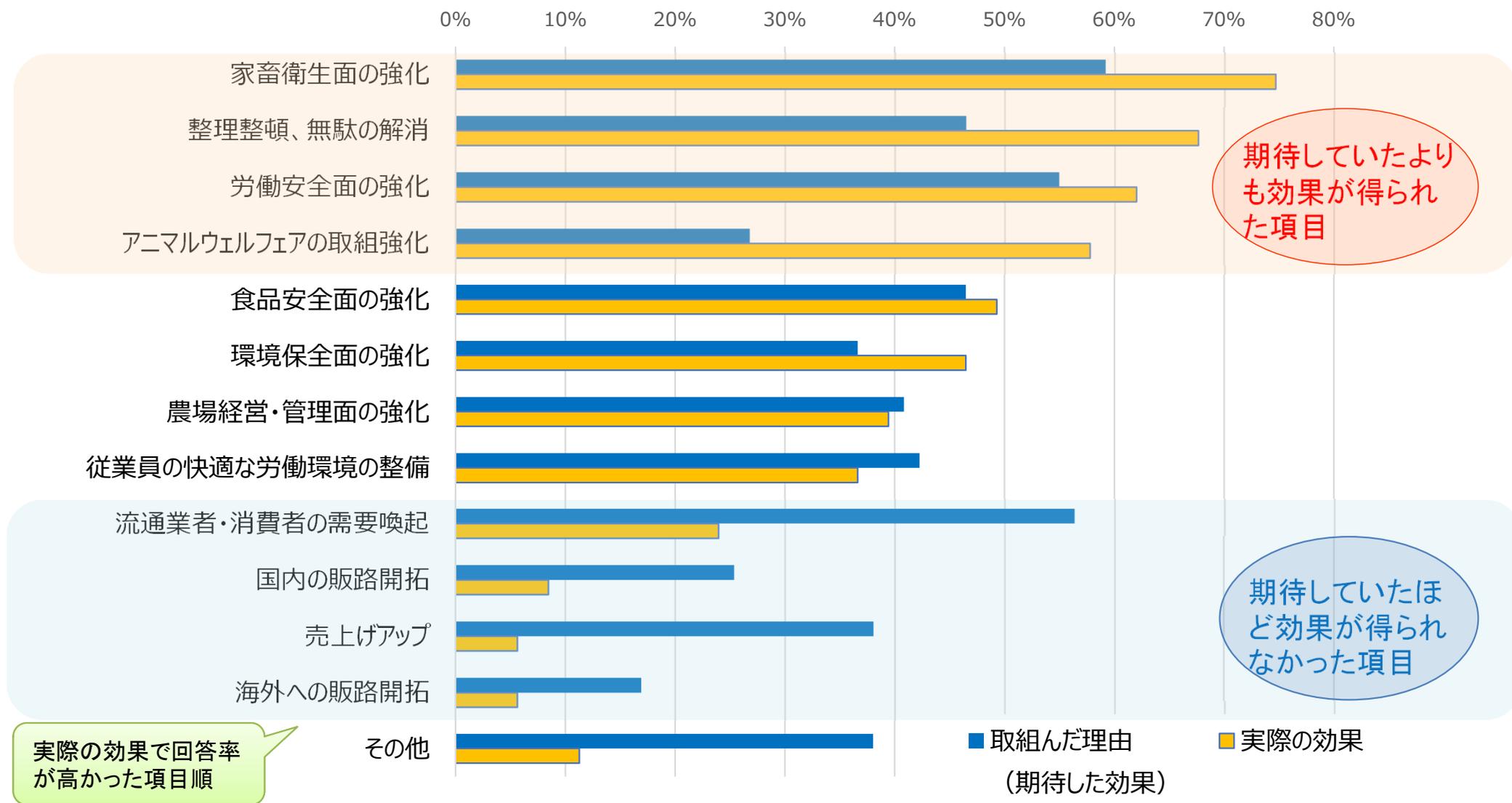
【外国人実習生数】



回答があった71経営体のうち、従業員数は10名以上～50名未満が66%で最も多い。また、GAP認証取得経営体のうち31%の農場で外国人実習生が従事している。

(2) 取り組んだきっかけと実際の効果(複数回答可)

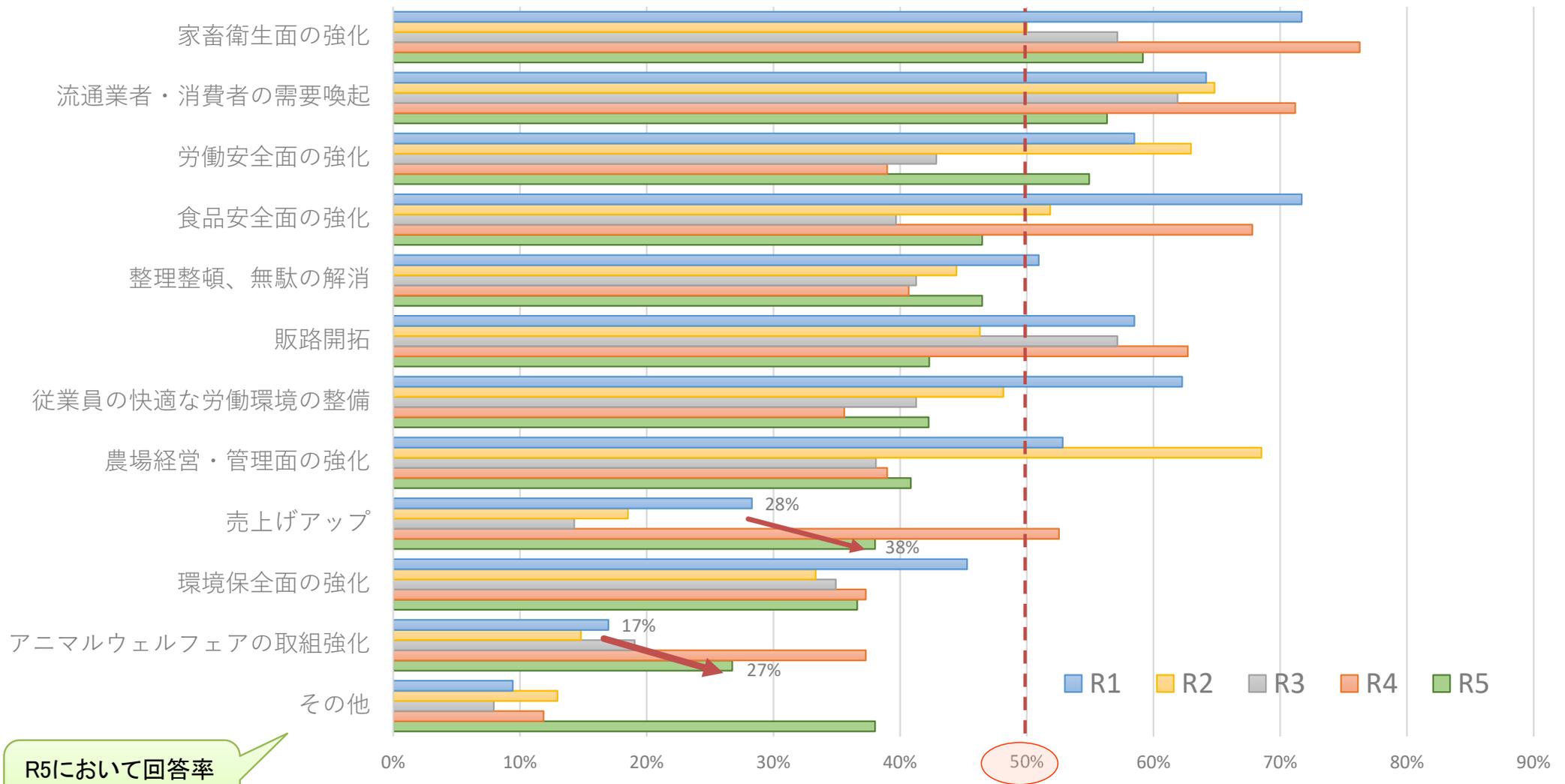
【R5年調査】



「家畜衛生面の強化」で期待した効果及び得られた効果ともに回答率が高かった。主に農場管理に関する項目においては期待した効果していた以上に効果が得られている傾向がみられた一方、流通への活用に関する項目においては、期待していたほど効果が得られていない実態が伺えた。

(3) 取り組んだきっかけ(期待した効果)(複数回答可)

【R元年～R5年調査】



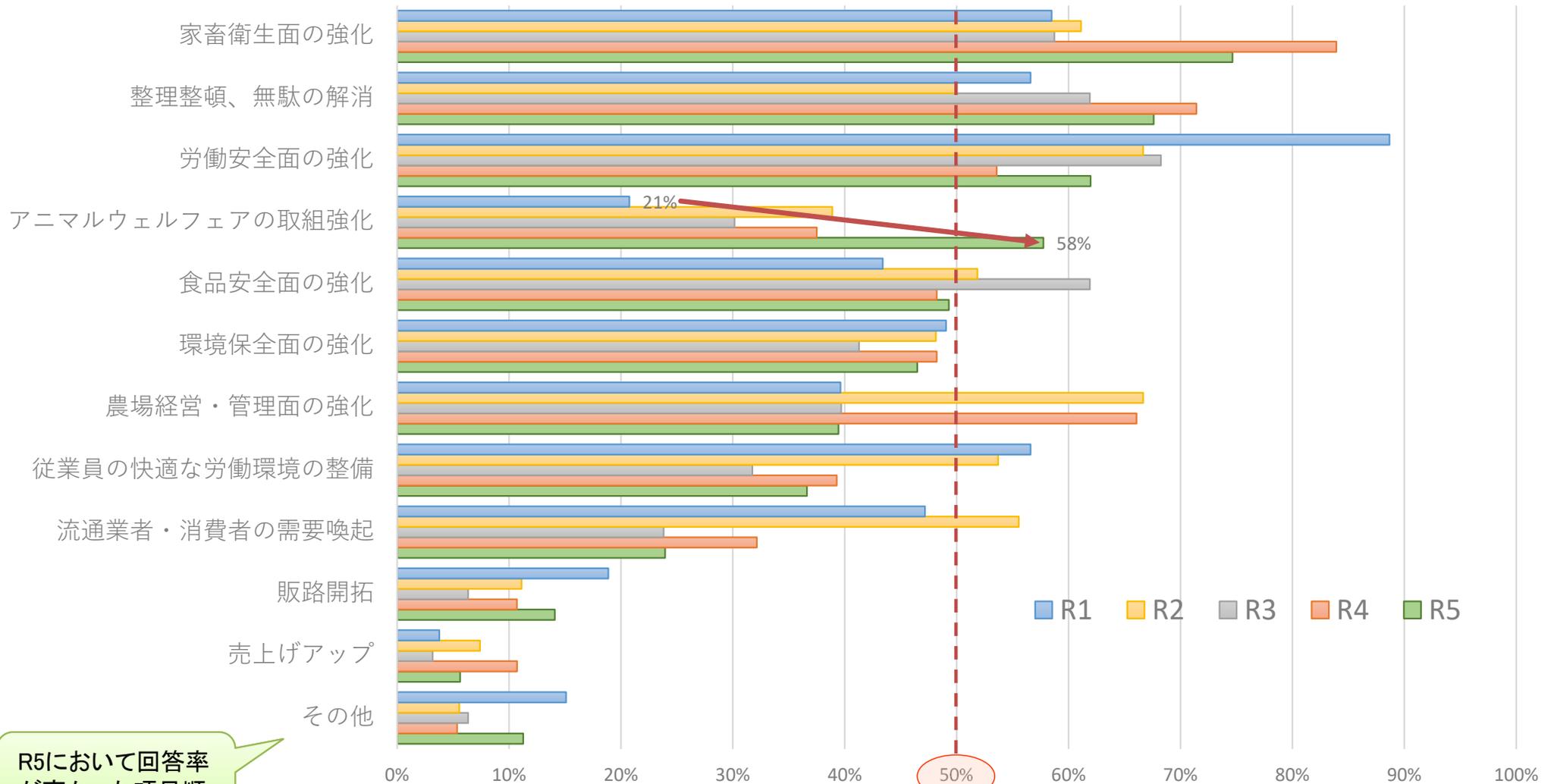
R5において回答率が高かった項目順

※その他: 認証取得で差別化を図るため、学習指導要領への対応 等

取り組んだのきっかけのうち「家畜衛生面を強化したい」、「流通業者・消費者の信頼を得て、求められたい」は5年間を通じて50%以上の回答率があった。「アニマルウェルフェアの取組を強化したい」「売上アップしたい」では回答率は低いものの、R元年からR5年を比較するとやや増加傾向にある。

(4) 取り組んだ効果(複数回答可)

【R元年～R5年調査】



R5において回答率が高かった項目順

取り組んだ効果については「家畜衛生面を強化できた」、「整理整頓ができ、無駄がなくなった」「労働安全面が強化できた」で5年間を通じて50%以上の回答率があった。また、「アニマルウェルフェアへの取組が強化できた」において、令和元年で21%と回答率が低かったが、令和5年では58%と半数以上の回答であった。

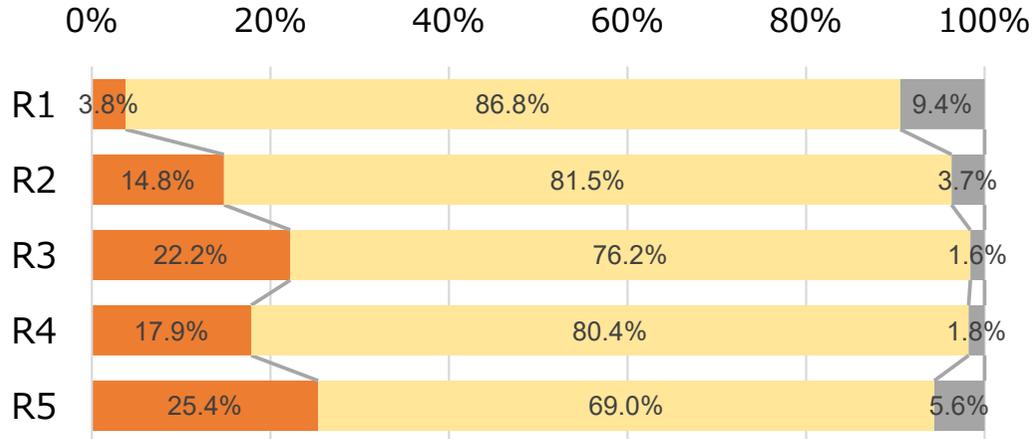
「国内外の販路拡大できた」「売上アップした」では毎年回答率が低い傾向にある。

(5)GAP導入による変化(経営改善効果) 【R元年～R5年調査】

【販売面の改善】

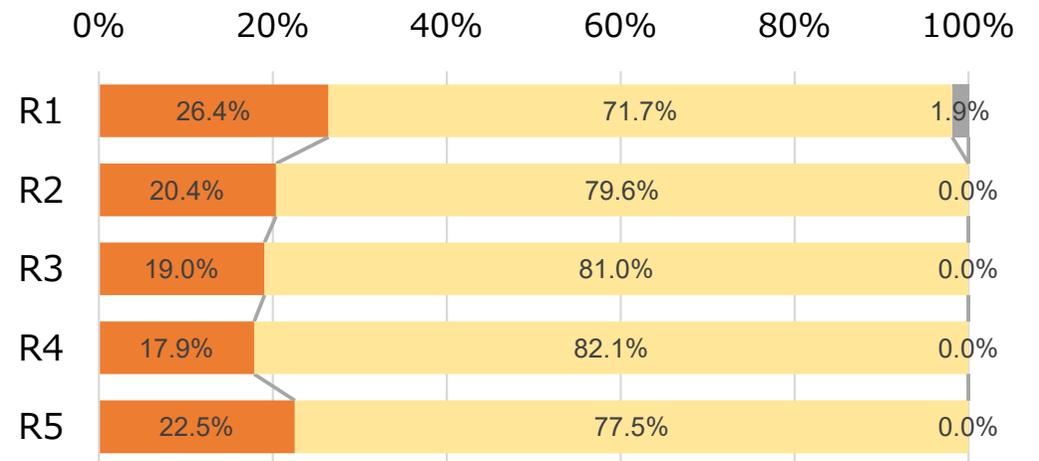
売上げ

■ 増加・やや増加 ■ 変化なし
■ やや低下・低下



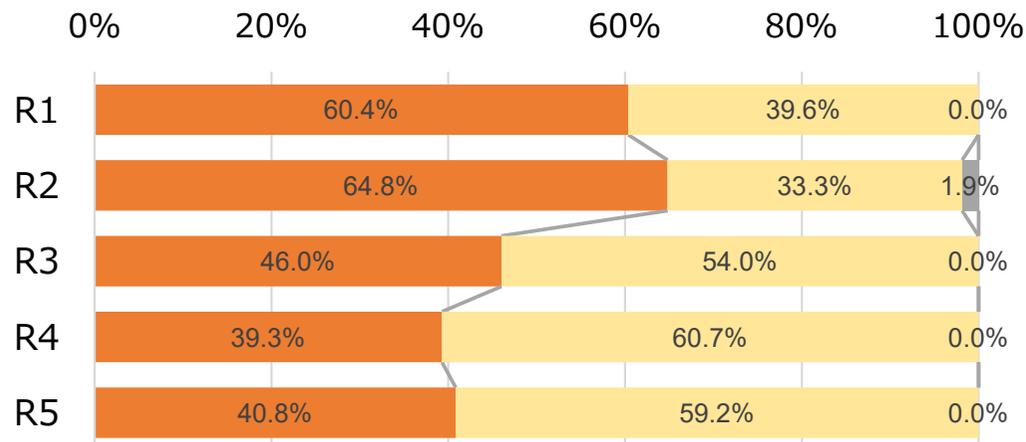
販路拡大

■ 増加・やや増加 ■ 変化なし
■ やや低下・低下



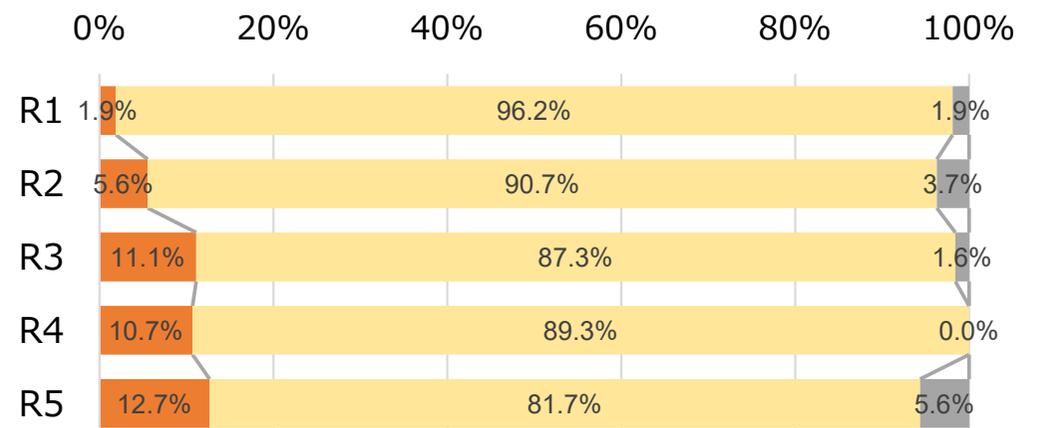
販路先からの信頼

■ 増加・やや増加 ■ 変化なし
■ やや低下・低下



販売単価

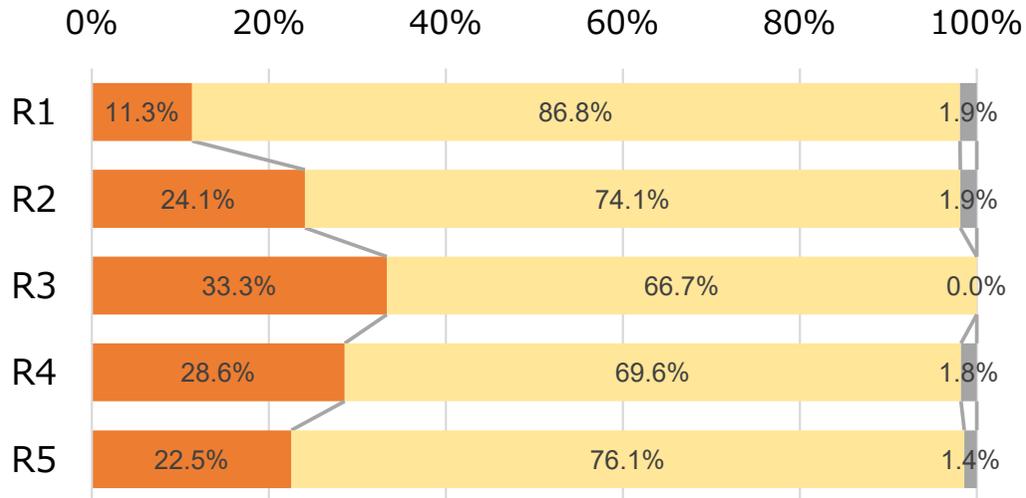
■ 上昇・やや上昇 ■ 変化なし
■ やや下落・下落



【生産量・品質面の改善】

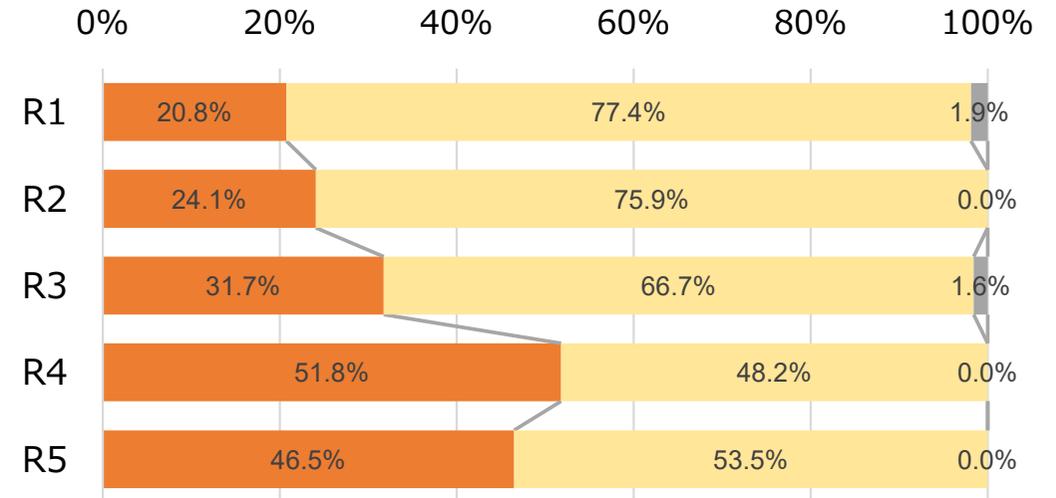
生産量

■ 増加・やや増加 ■ 変化なし ■ やや低下・低下



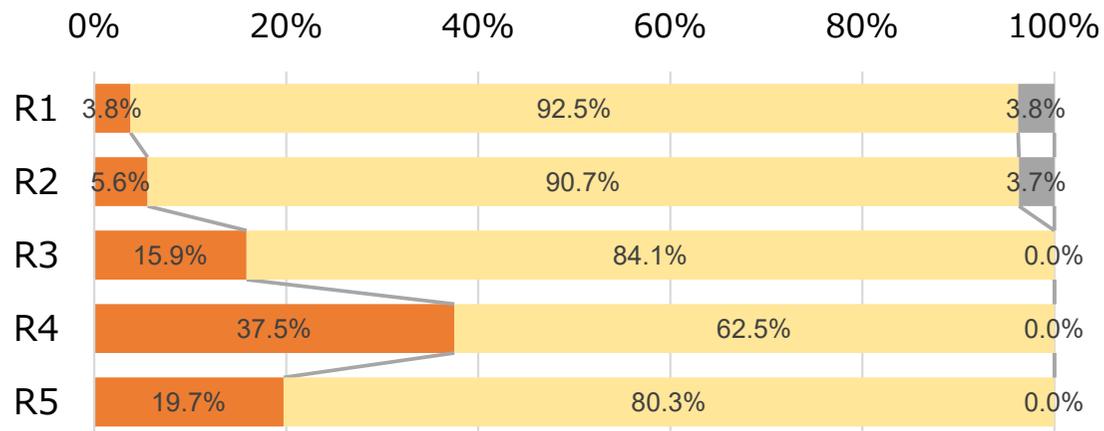
品質（等級、規格）

■ 向上・やや向上 ■ 変化なし ■ やや低下・低下



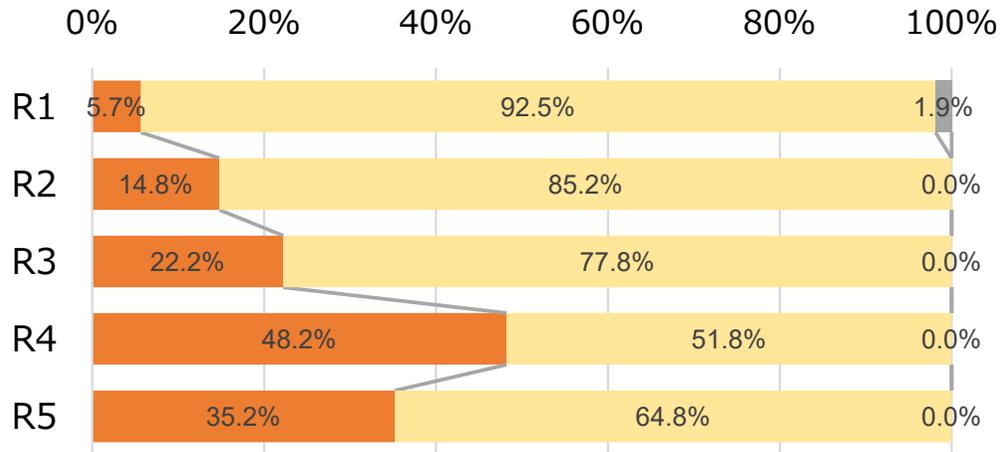
クレーム数

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加



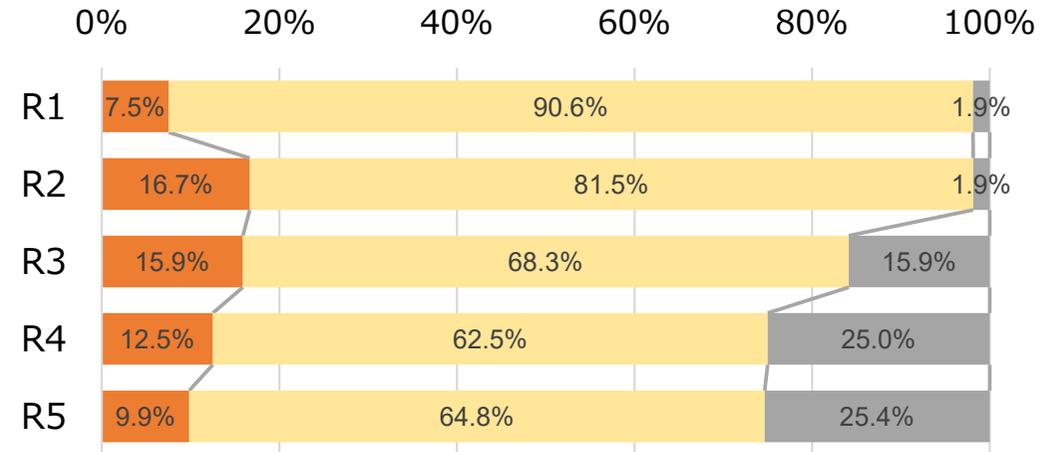
無駄な飼料量

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加



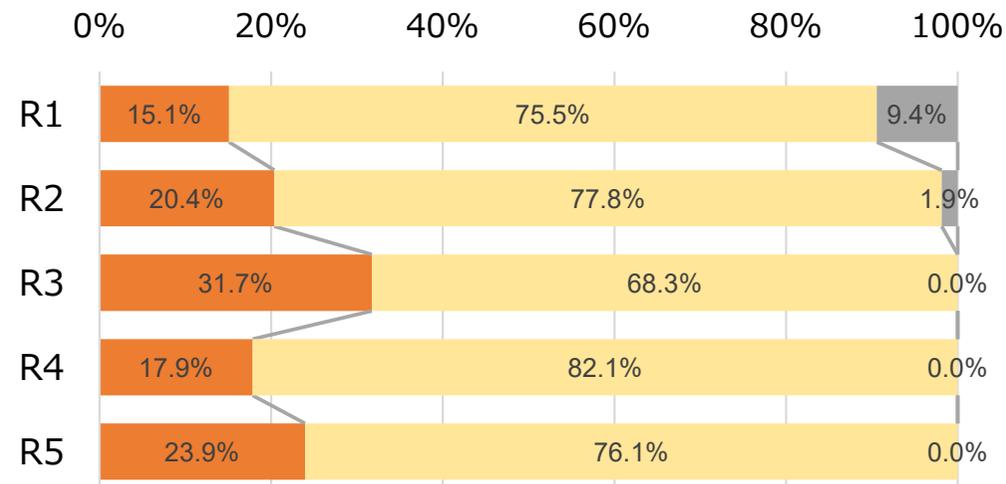
生産コスト

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加



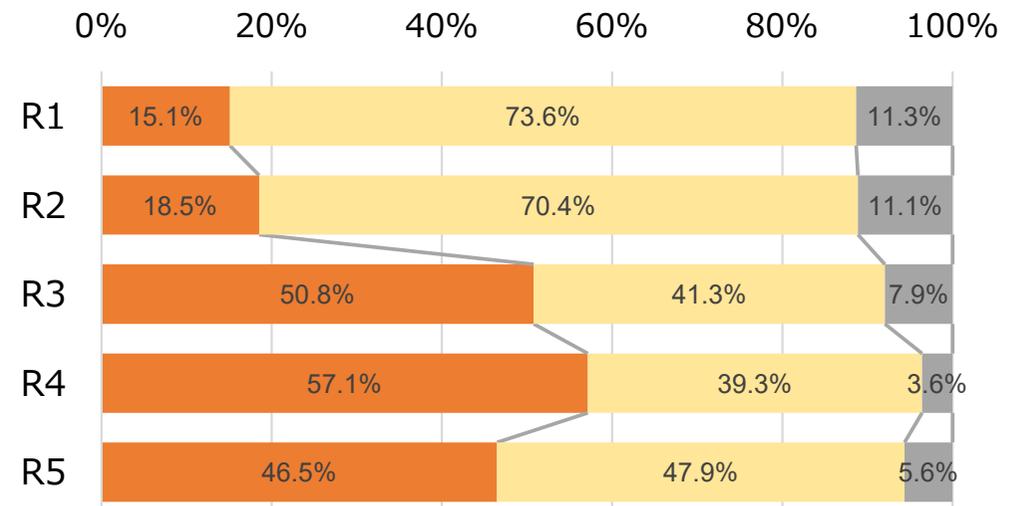
資材の欠品や在庫

■ 減少・やや減少 ■ 変化なし ■ 増加・やや増加

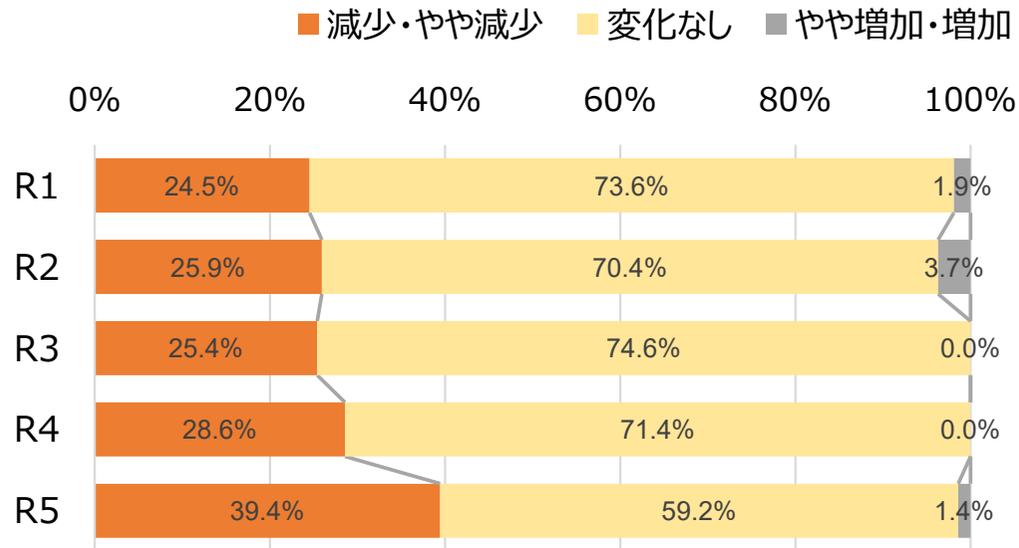


作業効率

■ 向上、やや向上 ■ 変化なし ■ 低下・やや低下

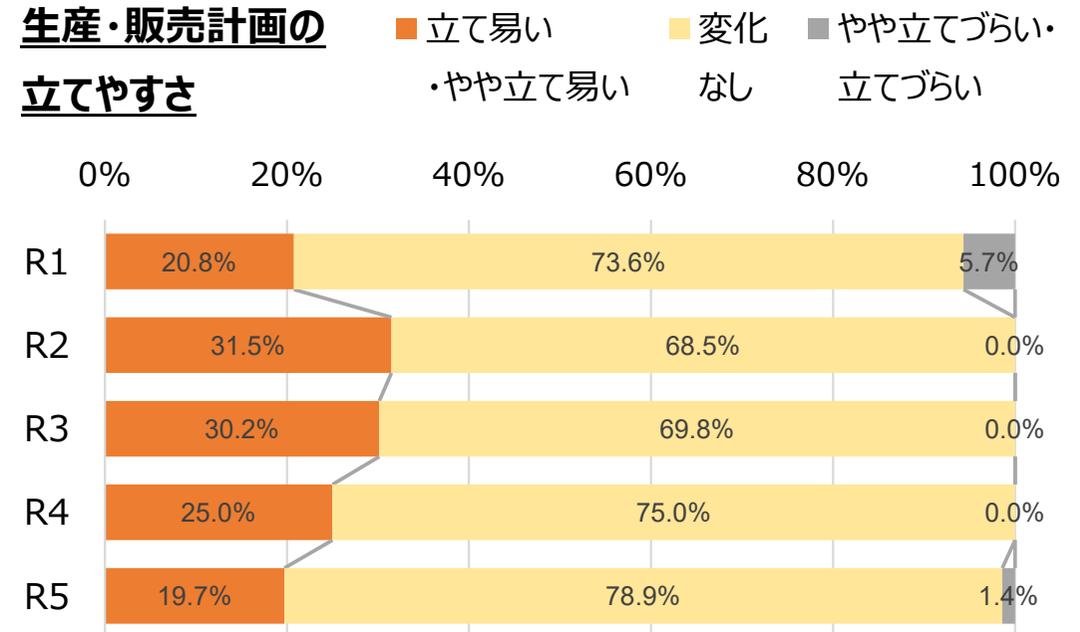


農作業事故件数



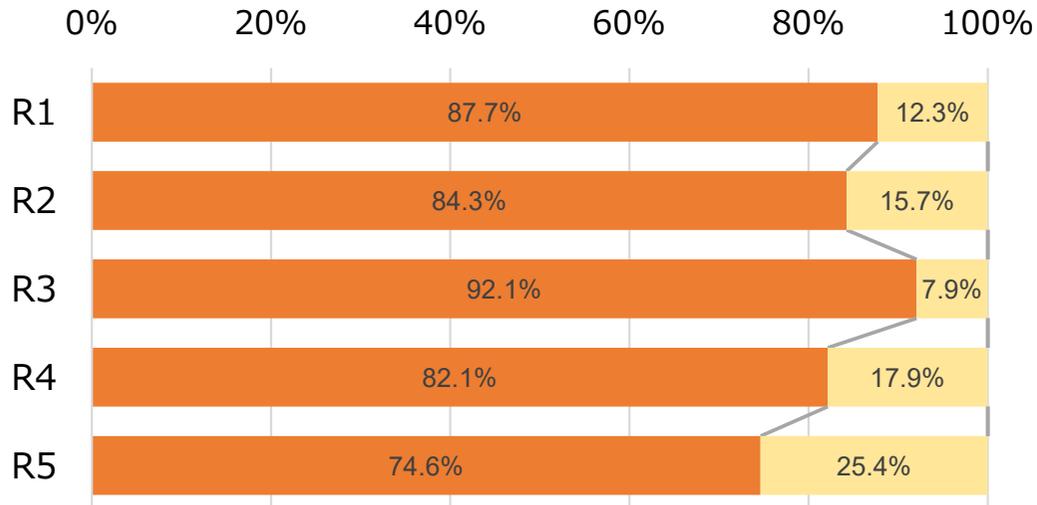
生産・販売計画の

立てやすさ



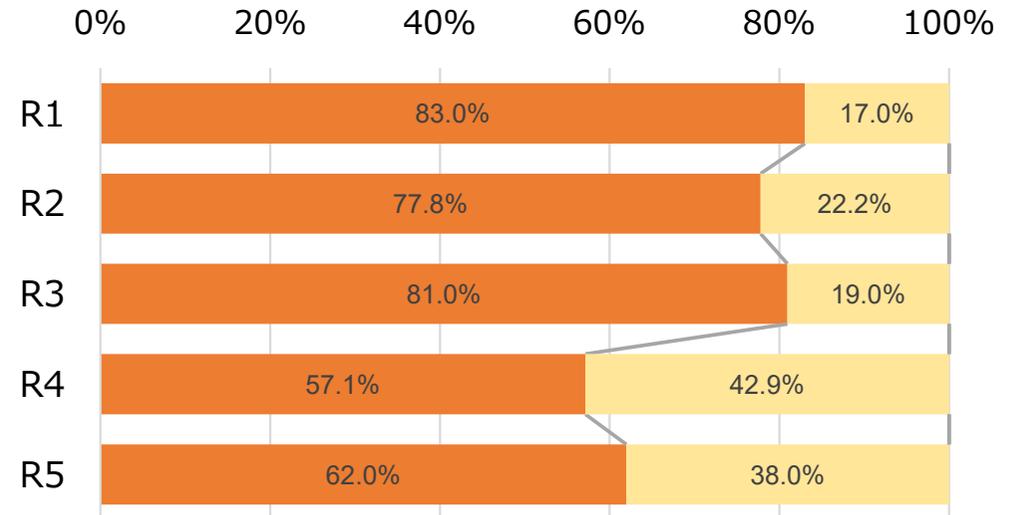
従業員の責任感及び自主性

■ 向上・やや向上 ■ 変化なし ■ やや低下・低下



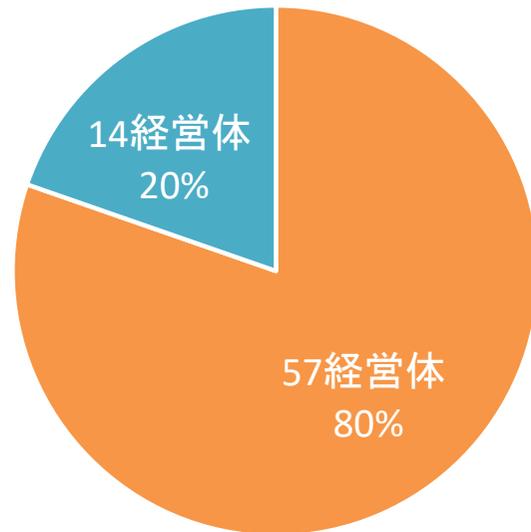
従業員の意思疎通

■ 向上・やや向上 ■ 変化なし ■ やや低下・低下



(6) 今後のGAPの取得方針、GAP認証の表示について

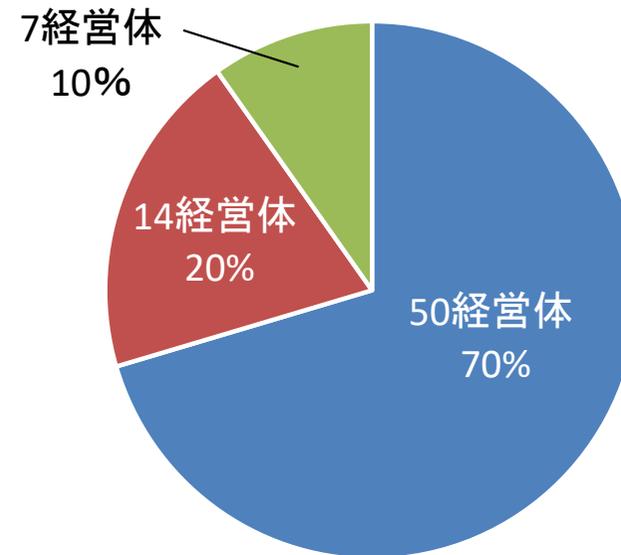
【今後のGAPの取組方針】



※アンケートを回収した全71経営体で「更新予定」と回答。「更新の予定なし」は回答なし。

- 個別認証による更新を予定
- 団体認証による更新を予定

【JGAP認証の表示(JGAPロゴマークの使用)】



- JGAPロゴマークを使用している
- JGAPロゴマークを使用していないが今後使用したい
- JGAPロゴマークを使用していない。今後も使用予定はない。

今後のGAP認証取得について更新予定のない経営体はなく、JGAP認証の表示は全体の7割を占める一方、JGAPロゴマークを使用しているか否かにかかわらず、その認知度の向上や手続きの簡素化に関して改善を求める声があった。

(7) 生産者等の声

生徒への教育効果やGAPに対する意識向上があった。

取得に関わる諸経費によりコストが増加した以外の変化がない。

販売店でJGAPを知っている方がいるとのことから、販路に関して役立っていると聞いている。

少しではあるが導入により全体では成長がみられるが、一般消費者の認知度が相変わらずといった印象。

自然災害時においてスムーズに対応することができた。

公的機関として、JGAP事例の情報発信と構築支援を行うことができた。

取得したばかりでまだ実感する結果が得られていない。

SDGsに取り組めた。

家族経営のため、事務作業は増えた。

農業教育機関でのGAP認証取組が増加してきたこと、販売面においてGAPの取組が理解されつつある反面、最近の生産費コスト高の影響を受けている農場も見受けられた。